



TITLE:

獨領植民地ノ處分問題

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 獨領植民地ノ處分問題. 經濟論叢 1917, 4(5): 758-763

ISSUE DATE:

1917-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127198>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號五第 卷四第

行發日一月五年六正大

論說

經濟的行爲と道德的行爲との關係(一)……………

法學博士

田島錦治

奢侈税ノ辯難……………

法學博士

神戸正雄

きんぐノ法則と米麥價……………

法學士

河田嗣郎

經濟心理學ノ組織的研究(四、完)……………

………

米田庄太郎

支那經濟思想ノ出發點(二、完)……………

法、文學士

小島祐馬

時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善……………

法學博士

戸田海市

支那關稅引上と日本ノ紡績業……………

法學博士

神戸正雄

雜錄

米國ノ海外放資力……………

法學博士

神戸正雄

獨領植民地ノ處分問題……………

………

山本美越乃

移民と米國ノ勞働……………

………

米田庄太郎

米國聯邦農地貸附法……………

法學士

河田嗣郎

獨領植民地ノ處分問題

山本美越、乃

今次ノ大戰以前ニ獨逸ガ海外各地ニ領有シタル植民的地域ハ、亞弗利加(面積九十三萬一千四百六十方哩、人口一千百三十四萬八千七百人餘)南洋(面積九萬六千六百六十方哩、人口六十三萬六千五百人餘)及支那(面積二百方哩、人口十六萬八千九百人餘)ノ三方面ニ亘リ、全面積百〇二萬七千八百二十方哩、人口一千二百十五萬四千一百人餘ヲ包容セシガ、開戰以來主トシテ日・英・佛三國ノ協力ニ依リ、是等ノ植民地ハ殆

ンド全ク聯合軍ノ占領ニ歸スルニ至レリ、從テ戰後如何ニ之ヲ處分ス可キヤハ、他ノ講和條件ト共ニ、今ヨリ攻究ヲ要スベキ問題トシテ近時漸ク世論ニ上リツツアリ。

惟フニ開戰以來聯合各國ガ極メテ敏速ニ獨逸ノ植民地ヲ占領シタル所以ハ、荏苒日月ヲ經過スル時ハ是等ノ植民地ハ終ニ海外ニ於ケル獨逸ノ作戰計畫地ト化シ、或ハ海上ニ或ハ陸上ニ聯合國ノ協同動作ヲ妨碍スルノ危險アリシヨリ、之ヲ占領シテ其ノ作戰計畫ヲ未然ニ防止スルノ必要アリシト、植民地ハ後進植民國タル獨逸ニトリテハ掌中ノ珠ニシテ、獨逸皇帝ノ如キハ常ニ植民地ヲ呼ビニ自己ノ愛兒ヲ以テシ、多年懷抱セル領土の帝國主義ノ收穫物トシテ他國ニ誇リツツアリシガ故ニ、之ヲ占領シテ獨逸ニ一大打擊ヲ與ヘ、以テ國民ノ意氣ヲ沮喪セシメントスルノ計畫ニ出デタルモノナルベシ、而シテ此ノ第二ノ目的ニ至リテハ、果シテ之ヲ達シ得タリヤ否ヤ疑ナキ能ハズト雖ドモ、第一ノ目的ハ殆ンド遺憾ナク之ヲ貫徹シ得タルガ如シ、從テ

將來講和ノ際ニ獨領植民地ノ處分問題ヲ議スルニ當リテハ、最モ多ク此ノ目的ノ貫徹ニ努力シタル國ハ、又最モ多ク此ノ問題ニ關シテ發言權ヲ與ヘラレザルベカラズ、斯カル觀點ヨリセバ亞弗利加ニ於ケル植民地ノ處分問題ニ付キテハ主トシテ英・佛・阿國、支那及南洋ニ於ケル植民地ノ處分問題ニ付キテハ日・英・阿國ハ、他國ニ率先シテ其ノ意見ヲ提出シ得ルノ地位ニ在リト言ハザル可カラズ。

外電ノ傳フル所ニ據レバ、英國ニ於テハ既ニ此ノ問題ニ關シテ略ボ輿論ノ一致ヲ見ルニ至レルモノノ如シト雖ドモ、我が國ニ於テハ識者ノ間ニ在リテスラ尙其ノ意見區々ニシテ、從テ爲政者ニ對スル有力ナル輿論ノ後援ナルモノ存セズ、是レ一ニハ我が國民間ニ支那及南洋ニ於ケル獨逸ノ植民地ニ關スル實際的知識ノ缺如セルニ由ルトハ謂ヘ、又一ニハ彈丸黒子ノ地敢テ輿論ヲ喚起セシムル程ノ重大ナル問題ニ非ズトナス一種ノ謬見ノ罪ニ原因セズンバアラズ、吾人ハ茲ニ此ノ問題ヲ詳論スルノ餘白ヲ有セズト雖

ドモ、外電ノ傳フル所ヲ綜合シテ英國内ニ於ケル輿論ノ傾向ヲ察シ、之ニ對スル與見ノ一端ヲ開陳セント欲ス。

獨領植民地ノ處分問題ニ關スル英國内ノ輿論ハ、分チテ之ヲ二トナスコトヲ得ベシ、一ハ總括的領有論ニシテ他ハ選擇的領有論是レナリ。總括的領有論ノ根據トスル所ハ、今次ノ植民地戰爭ニ依リテ英軍ノ占領ニ歸シタル獨逸ノ植民地ハ、亞弗利加ニ於テハ勿論南洋ニ在リテモ地理上英國ノ植民地ト密接ナル關係ヲ有シ、且之ガ占領ハ英領植民地軍ノ努力ニ負フ所頗ル大ナルヲ以テ、戰後獨逸ニ還附スルガ如キコトハ到底英領植民地ノ承諾セザル所ナルベク、又英本國ニトリテモ此ノ機會ニ於テ獨逸ノ領土の帝國主義ヲ根柢ヨリ打破スルニ非ズンバ、永久ニ其ノ危險ヲ免ルルノ時機ナカルベシ、故ニ獨領植民地還附論ノ如キハ今日ニ於テハ殆ンド想像スル能ハザル所ナリト謂フニ在リ、此ノ說ハ現今英本國及植民地ヲ通ジテ最モ有力ナルモノニシテ、植民大臣ろんぐ氏ノ如キモ亦同一ノ意見

ヲ有シ閣員中ニモ此ノ說ニ贊スル者少ナカラザルガ如シ、故ニコハ寧ろ現るいど、ぢよーち内閣ノ懷抱セル意見ト稱スルモ不可ナカルベシ。

然ルニ選擇的領有論ノ根據トスル所ハ、獨逸ノ植民地ハ其ノ面積ニ於テハ極メテ廣大ナルモ、仔細ニ之ヲ點檢シ來ル時ハ移住植民地トシテモ放資植民地トシテモ、將來多大ノ希望ヲ囑シ得ベキモノ甚ダ少ナシ、加之、亞弗利加ニ於テモ亦南洋ニ於テモ、獨逸ノ植民地ハ一朝有事ノ日ニハ英國ノ力ヲ以テセバ容易ニ其ノ死活ヲ制シ得ベキ地位ニ在リ、故ニ之ガ經營ニ尙巨額ノ國庫ノ補助ヲ要スルニ拘ハラズ、其ノ領有ノ利益ヲ受クルコト少ナキ植民地ハ宜シク之ヲ獨逸ニ還附シ、唯經濟上及軍事上英國ニトリテ最重要ナル關係ヲ有セル植民地ノミ之ヲ永久ニ占領スルヲ得策トスト謂フニ在リ、此ノ說ハ前說ノ如クニ一般的ノ贊成ヲ博スルニ至ラズト雖ドモ、然カモ尙冷靜ナル態度ヲ持セル論者ノ間ニハ、正當ナル理由アルモノトシテ認メラレ、又有力ナル一說タルヲ失ハズ、前あすくいす内閣ノ

如キハ此ノ說ニ傾ムキツツアリシモノノ如シ。

吾人ノ見ル所ニ依レバ、假令英國ハ總括的領有論ヲ以テ講和ノ一條件トナスモ、獨逸ガ從來ノ植民地ヲ全ク拋棄シテ顧ミザルガ如キ態度ニ出ヅルコトハ、到底想像シ得ベカラザル所ニシテ、若シ之ヲ承諾スルノ時アリトセバ必ズヤ其ノ對價ヲ現ニ白國ノ勢力ノ下ニ在ル他ノ方面ニ於テ要求スルノ日ナラザルベカラズ、然カモ白耳義ノ侵略ハ固ヨリ聯合國ノ諾スル能ハザル所ニシテ、獨逸ト雖ドモ亦斯カル非望ハ之ヲ有セザルベク、唯白耳義本國ノ獨立ヲ回復スルノ一條件トシテ、亞弗利加ニ於ケル白領こんびー地方ヲ要求スルガ如キコトハ、必ラズシモ無稽ノ臆測トノミ稱スベカラズ、其ノ他ニ在リテハばるかん半島及小亞細亞方面ニ對スル獨逸ノ新領土的要求ハ、到底英・露兩國ノ容ルル所トナラザルベキヲ以テ、結局何等ノ要求ヲモ許スコトナクシテ無條件ニ其ノ植民地ヲ悉ク拋棄セシメントスルモ、ソハ言フ可クシテ殆ンド行フ可カラズ、加之、獨逸ノ植民地ノ領有ニ關シテ最

モ大ナル利害關係ヲ有セル者ハ、歐洲ニ於ケル
交戰國中ニテハ獨リ英國ノミト稱スルモ不可ナ
キガ故ニ、他ノ講和條件ノ諸シ得ベキモノアル
ニ拘ハラズ、英國ノ總括的植民地領有論ニ於テ
意見ノ一致ヲ見ザルガ爲メニ、交戰狀態ヲ繼續
セントスルガ如キコトハ、英國ト雖ドモ敢テ之
ヲ爲スノ勇ナカルベシ、此ノ如クニ觀察シ來ル
時ハ、總括的領有論ノ如キハ講和條件ノ協定ノ
際ニハ、尙幾多ノ折衝ノ餘地ヲ發見シ得ルモノ
ト謂フヲ得ベク、從テ若シ植民地ノ領有ヲ講和
ノ一條件トナス場合ニハ、結局選擇的領有論ノ
勝利ニ歸スルニ至ルベシ。

吾人ノ見ル所ハ要スルニ此ノ如シ、果シテ然
リトセバ假リニ斯カル場合ニ英國ノ領有ヲ主張
スベキ植民地如何、コハ頗ル興味アル問題ニシ
テ、恐クバ亞弗利加ニ於テハ獨領東部亞弗利加
及西南亞弗利加ノ一部ヲ、又南洋ニ於テハに
ーギニア及さもあ群島ヲ以テ之ニ答フルノ、當
ラスト雖ドモ遠カラザルガ如シ、左ニ其ノ理由
ヲ略説セン。

亞弗利加ニ於ケル獨逸ノ植民地ハ、

獨領東部亞弗利加（一八八五年乃至九〇年領
有、面積三十八萬四千八百十方哩、人口七百六
十八萬〇一百人餘、內、獨逸人四千一百人餘ヲ
含ミ白人總數五千三百人餘、重要輸出品、護謨・
椰子核・象牙・珈琲・龍舌蘭麻等年額平均百四十
萬磅・重要輸入品・綿布類・米・鐵器類等年額平均
二百四十萬磅、一九一四年度ニ於ケル歲入不足
額即チ國庫補助額三十六萬三千磅）、

獨領西南亞弗利加（一八八四年乃至九〇年領
有、面積三十二萬二千四百五十方哩、人口九萬
四千三百人餘、內、獨逸人一萬二千二百人餘ヲ
含ミ白人總數一萬四千八百人餘、重要輸出品、
銅鐵・鳥糞・畜産類即チ牛・馬・羊・山羊・豚等年額
平均百六十萬磅 重要輸入品 穀物及穀粉・煙
草・麥酒・木材・織物類・鐵及鐵器類等年額平均百
八十萬磅、一九一四年度ニ於ケル歲入不足額八
十四萬二千磅）、

かめるん（一八八四年領有、面積十九萬一千百
三十方哩、人口二百五十四萬一千八百人餘、內、

獨逸人一千六百人餘ヲ含ミ白人總數一千八百人餘、重要輸出品、護謨、機欄核及同油象牙・ここあ等年額平均百十萬磅、重要輸入品、織物類、酒精、木材、鹽、鐵器類等年額平均百五十萬磅、一九一四年度ニ於ケル歲入不足額二十九萬七千五百磅、と一七一(一八八四年領有、面積三萬三千七百方哩、人口百〇三萬二千三百人餘、内、獨逸人三百人餘ヲ含ミ白人總數三百六十人餘、重要輸出品、ここあ・機欄核及同油、護謨・綿等年額平均四十萬磅、重要輸入品、機械類・米・砂糖等年額平均五十萬磅、一九一四年度ニ於ケル歲入不足額三萬四千磅)、(註)

ノ四大部ニ分レ、植民地ノ財政狀態ヨリ論ズル時ハと一七一最モ優良ニシテかめるん之ニ次ギ、東部及西南亞弗利加ハ尙頗ル不振ノ狀態ニ在ルモ、英國トシテハ前者ヨリモ寧ロ後者ヲ選擇ス可キ幾多ノ理由アリ、蓋シ獨領東部亞弗利加ハ英國多年ノ宿望タル亞弗利加縱貫鐵道ノ通路ニ接シ、且氣候比較的良好ニシテ白人ノ居住ニ適スルノミナラズ、うがんだ・英領東亞弗利加・

ろーでしあ・ざんぢばる等ノ、英ノ植民地又ハ保護地ヲ以テ圍繞セラルルガ故ニ、若シ之ヲ領有スルヲ得バ、英國ハ北かいりヨリ南喜望峰ニ至ル亞弗利加大陸ヲ縱斷セル一大植民地ヲ有スルコトナリ、更ニ又英領南亞聯邦及ろーでしあ地方ヨリ亞弗利加ノ西岸ニ適當ナル出路ヲ得ンコトハ、等シク英ノ積年ノ希望トスル所ニシテ、現ニわるふいつしゆ灣ヲ領有セル事實ハ益々其ノ必要ヲ感ゼシメツツアルヲ以テ、少クトモ獨領西南亞弗利加ノ一部ハ、東部亞弗利加ニ次デ選擇セラルベキ理由アリトス、尤モ獨領東部亞弗利加ノ占領ハ、西南亞弗利加ノ占領ノ如クニ單ニ英ノ植民地軍ノ功績ノミニ歸ス可カラズシテ、又白・葡兩國ノ植民地軍ノ協力ニ負フ所少ナカラザルガ故ニ、英國ノミ獨リ其ノ利益ヲ壟斷スルコト能ハザルベシト雖ドモ、這ハ自ラ別ニ議定セラルベキ問題タリ、次ニ南洋ニ於テハにゆーぎにあ領(我が占領地ヲ除キ面積約九萬四千二百方哩、人口約七十二萬人)及さもあ群島(面積約一千方哩、人口約三萬五千人)ノ占領ハ、

(註) 以上ノ計數ハ Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich ノ最新ノモノヲ得難キニヨリ暫ク Statesman's Year-book for 1916 ニ據ル

濠洲及にユー・ジー・ランドノ協力ニ負フ所大ナルヲ以テ、英國ハ其ノ功ニ酬ユルト共ニ又彼等ノ多年ノ領有ノ希望ヲ達セシメンガ爲メニ、之ガ永久的ノ占領ヲ主張スルニ至ルベキハ疑ヲ容レザルベシ。

獨領植民地ノ處分問題ニ關スル英國ノ輿論ハ要スルニ上述ノ如シト雖ドモ、翻テ同一問題ニ對スル我が國ノ輿論ニ關シテハ區々歸一スル所ヲ知ラズ。膠洲灣ノ早晚支那ニ還附セラルベキハ殆ンド既定ノ事實ナルガ如シト雖ドモ、之ガ還附ハ固ヨリ無條件ナル可カラズ、從テ其ノ還附ニハ如何ナル條件ヲ附スベキヤハ、今ヨリ慎重ナル攻究ヲ要スベキ問題タリ。又南洋ニ於ケル新占領地ニ關シテモ、將來太平洋上ノ平和ヲ維持セント欲セバ、宜シク之ヲ我が國ニ收ムルヲ以テ得策トスベク、彈丸黑子ノ地ナリトシテ輕々ニ之ヲ看過スベキニ非ズ、コハ地理上ノ自然ノ關係ヨリ論ズルモ、亦太平洋上ニ於ケル列國勢力ノ均衡上ヨリ考フルモ、至當ノ要求ト言ハザル可カラズ、殊ニ他ノ南洋諸島ノ英領ニ歸

スルガ如キ場合ニハ、我が新占領地ノ拋棄ハ全然無意義ナリト稱セザルヲ得ズ、然カモ斯カル問題ニ關シテ我が國ニ於テハ未ダ輿論ノ一致ヲ見ザルモノノ如ク、甚シキニ至リテハ公然拋棄論ヲ唱ヘテ顧ミザルガ如キ人サ・エアリ、日・英兩國民ノ思想ノ差異ハ此ノ一事ヲ以テモ之ヲ窺フコトヲ得ベシ。歐洲大戰ノ終局ニ近ヅクニ先ダチ、吾人ハ我が國ニ於テモ亦此ノ種ノ問題ニ對シテ、周到ナル研究ニ基ヅケル根柢アル輿論ヲ形作り、以テ爲政者ニ有力ナル後援ヲ與フルノ必要アリト信ズ。